

北海道師範塾 塾頭通信

「教師の道」

第983号 平成27年8月18日

お盆玉

郵便局に行くと、面白いものが目に入りました。

暑中見舞いの葉書のセットは定番ですが、その横に数種類の「お盆玉」なる“ぽち袋”が売られていました。

一瞬「お盆玉」とは日本郵政も考えるものだと思ったのですが、この「お盆玉」という風習は、江戸時代、東北地方で奉公人に衣類や土産を渡すという習慣があったらしく、それが由来となっているようです。

お正月に帰省した孫に渡すのが「お年玉」で、お盆の帰省の際に渡すのが「お盆玉」という訳ですが、最近までそのような習慣は知りませんでした。

お盆といえば、全国的に8月15日を指しており、その頃は学校の夏休みと重なっている事もあり、毎年、子どもや孫達が帰省して来るのを楽しみにしている方も多いと思います。

ところで、「お年玉」というのは、元々は年神さまへのお供え物であった鏡餅の事を指していたのだそうです。神様にお供えした鏡餅には神さまの魂が込められていますので、お下がりとして頂く時にこの鏡餅を「お年玉」と呼んでいたのが、子ども達がお正月に楽しみにしている「お年玉」の語源のようです。

今ではそうしたいわれも忘れ、お正月に親等から貰うお小遣いの事を「お年玉」と思っている子どもが多かろうと思いますが、親としては、「お年玉」を渡す際には、子ども達の幸せを願い、神様からのお下がりとして渡すものだということをしっかりと伝えると共に、神様に感謝、親に感謝の心を育てて欲しいと思います。

また、「お盆玉」についても、私は、単に「お年玉」の代わりではなく、自分達を見守って下さっている先祖の思いを分かち合うものとして捉えるべきだと思っています。

私達が今日あるのは自分の力だと思っている人は、殆どいないだろうと思います。勿論、世の中には自分の力だけでやって来たと思っている人がいない訳ではありませんが、そのような人に出会うと、私は「この人は随分と勘違いをしているな」、「周

おぼんだま袋 小
(クマ)



おぼんだま袋 小
(雲とひまわり)



りが良く見えていない人だな」と感じてしまいます。

私自身は、自分の努力以上に、沢山の見えない力に支えられていると感じながら生きて来ました。今は亡き父母、祖父母、更に遡れば想像も出来ない程に沢山の祖先の力によって守られて来たというのが、偽らざる心境です。

私の孫は、まだ1歳になったばかりで「お年玉」も「お盆玉」も今のところは関係ありませんが、いずれ「お年玉」や「お盆玉」を渡す事が出来る年頃になったら、見えない力への畏敬の念、先祖への感謝の心をしっかりと伝えて行きたいと思っています。

(塾頭 吉田洋一)